

新潟県

平成3年

公民館月報

1月
第455号

記念講演 公民館職員に期待する



飛翔の意志を
つばさの網膜に映して
新しい年が離陸する

洪水のあとの 崩れた壁を越えて
いま 方舟はひとつ
まあるく世界を押しあげる
春の気流に乗れば

東は西へ
西は東へと溶けてしまう

しなやかに翔ぼう わたしたち
空港は ほらそこに
あなたの髪の林のなか

星野 きよえ
（新潟市中央公民館）
「地平の会」

第39回公民館振興大会の開催

公民館のしなやかな活動を 満額獲得の強力な運動を

平成二年十一月二十七(火)、東京赤坂プリンスホテルを会場に、第39回全国公民館振興大会が開催された。

全国から千名を超える参加者が埋めつくされる盛大な大会が挙行された。

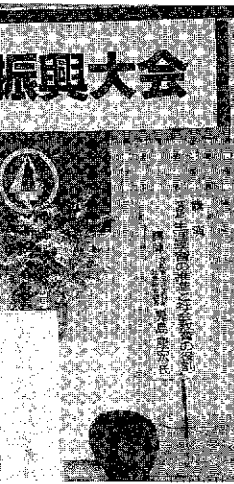
本県からは、五十五名の市町村長、教育長、公民館関係者が参加し大会を盛り上げた。

「よう」と呼びかけた。服部毅一公振連会長(焼津市長)は、「自治体首長が、国庫補助獲得のために大きな戦力となっている。今年もまた、満額獲得のために強力な運動を組むので協力してほしい」旨のあいさつがあった。

大会スローガンは「地域の生涯学習実践拠点としての公民館の活性化」。公民館振興のための国庫補助の大幅増額の実現を目標とするものであった。

折りから国会開会中というところもあって、多忙を極めている中から、松永光、渡部栄一、奥野誠亮(公民館振興国會議員懇談会メンバー)の三氏が駆けつけられて、祝辞と激励のあいさつを述べた。

表彰式は、全国優良職員四十九名、永年勤続職員百十九名に対し、表彰状と記念品が贈られた。本県からは、優良職員表彰には上野正氏(吉川町公民館社会教育主事)が、永年勤続職員表彰には塚本三栄氏(頸城村前公民館長)、佐藤賢一(新井市公民館主査)が受賞に輝いた。



開会、主催者のあいさつに立った吉里邦夫全公連会長は、「生涯学習社会の到来に当たり公民館の決意を新たに、しなやかな活動を展開し

大会スローガンは「地域の生涯学習実践拠点としての公民館の活性化」。公民館振興のための国庫補助の大幅増額の実現を目標とするものであった。

このあと、文部省生涯学習局社会教育課長鬼島康宏氏による、「生涯学習と社会教育の役割」と題する次の要旨の講演があった。

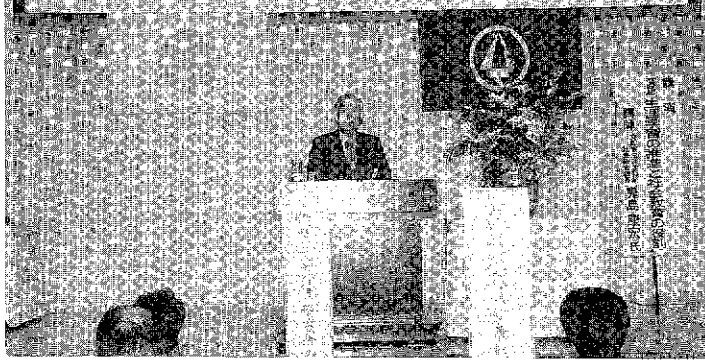
まず、いわゆる「生涯学習振興法」が先の国会で成立したこと、法律の名前として「生涯学習」という言葉が入ったのは画期的なことであるとし、この法律の三つの内容を解説した。

二、都道府県において、特定地域への「地域生涯学習振興基本構想」を策定すること。

三、文部省に生涯学習審議会を置き、都道府県や市町村においてもそうした体制づくりをしてほしい。

というものである。続いてこの法律の特色にふれ、国と県を施策の責任者に行っていることから、市町村の役割を軽視しているような批判があるようだが決してそうではないこと。文部通産両省が関係したり、民間活力の導入をうたっているのは、広く国民的な力で中広い生涯学習の需要に応えようとするもの。偏狭な考え方でなしに、広く提携協力の必要があること。公民館は、「生涯学習まちづくり」の拠点として、まちぐるみで取り組むための、連けい協力、ネットワーク化、各部局間のつながりなどを重視しつつ、生涯学習の広がりに視点を置いてほしい、と要望していた。

第39回全国公民館振興大会



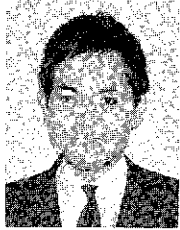
特別功労賞受賞の石井氏



上野氏 塚本氏 佐藤氏

このあと、大会宣言決議に移り、満場一致で採択された。(決議文は三面に掲載)

なお、大会終了後、別室で公民館振興市町村長連盟の理事・代議員会が開催され、平成元年度収支決算の承認、平成三年度事業計画、予算に関する案件が出席者全員一致で承認可決された。



しかしながら、公民館自体の物的、人的体

辛 口

生涯学習の移行が、喫緊の課題となつて、現在、公民館は、地域住民の学習

制はというと、関係者の努力にもかかわらず、昭和四十六年に社会教育審議会が「公民館の新しい役割とその拡充整備」を指摘した状況とあまり変わってはいないようである。

新年の抱負

西尾典真

職員の個人的な奮闘に多くを頼るような状況があるとするなら、生涯学習拠点というレッテルも慎重に受け止めるを得ないであろう。

現実の地域住民の学習活動の多様性は、かえって達成すべき行政目標水準を曖昧なものに映らせる方向で機能し、この中で公民館、社会教育関係者自体も

宣 言・決 議

公民館は、戦後一貫して社会教育活動の中心拠点としての役割を担い、地域社会の活性化に努めてきた。いわゆる90年代に突入した今日、生涯学習社会における公民館の役割は、ますます重要視要紙されるべきであり、われわれもまた一段と努力しなければならないことを自覚するものである。

ここに、われわれは第39回全国公民館振興大会を開催し決意を新たにするとともに、全国市町村長並びに公民館関係者の総意を結集し、次の事項が速やかに措置され、かつ確実に実現するよう強く要望するものである。

記

- 一、平成3年度公民館関係施設整備費補助金
- (1) 要求額 4,788百万円 (前年度4,536百万円)
- 内 訳
- 152館分 (前年度144館) 単価31,500千円
- (2) 「生活関連経費重点化枠」要望事項
- 要 望 事 項
- ① 公民館 1,880百万円
- 20館(新規)単価 31,500千円 630百万円
- 5館()単価 250,000千円 1,250百万円
- ② 公立生涯学習推進センター 1,350百万円
- 3館(新規)単価 450,000千円
- ③ 社会教育施設インテリジェント化推進整備費 135百万円
- 一、公民館職員の専門制確立をはじめとする、公民館振興のための法制度の整備
- 一、地方交付税基準財政需要額、公民館測定単位費用等の大幅増額
- 右 宣言し決議する。
- 平成2年11月2日

第39回全国公民館振興大会



冬 色



そんな色はあるのだらうか、美術関係にとんと無知な私は、どんな色か見たことがない。それどころか実際にある色なのかどうかもわからない。しかし、この言葉を聞くといつも一枚の絵が浮かぶ。南魚沼生まれの私には、田んぼ一面を埋めつくし、はるか大川の上手まで続く雪原があたまの中に広がる。

公 民 館 歳 時 記 ⑧

ささえざるものも影もない風景で遠近感がつかめず、一瞬目がクラッとする。今もそんな風景は残っているのだらうか。

そういえば、この冬は少雪暖冬なそう。ここ数年来季節のかわりめになると必ずのように、「異常」とか「例年になく」とかいう冠が付くものだから、すっかり慣れっこになってしまった。「異常」であるが「正常」なのかと思いまがうほどである。三年前の夏や冬が暑かったものやら寒かったものやら、もう覚えていない。

そんな健忘症の私も、昨年の今ごろ朝日新聞の「天声人語」でうーんと唸ったことは覚えていた。細部の表現は忘れてしまったが、年の区切り「新年」の発想を讀んでいた。本来連続する時間の流れをベッンと切り、ここからは次の年だよと分けている。除夜の鐘をして過去を忘れさせ、新たな出発のチャンスを与える人間のすばらしい知恵である。

なるほど、真偽はともかくとしておもしろい見方である。たしかに後悔しやすいいヒトの生活の智慧なのかもしれない。

さて、新しい年の始まりである。今年はどうな色に染めようか、染まるのか。

バラ色が最も良い色とは限るまでも、納得いく色に仕上げたいものである。できたらキャンパスを取り替えるのではなく、油絵のように塗り重ねて深みのある色にしたいのだが……。

できあがり自分が自分でも楽しんでいる。

(新潟市中央公民館事業係)

山田 隆

期待する —その1—

吉川 弘

民館連合会主催の「郡市公民館
されたもので、当時新潟大学教
(録音再生一要旨一のため。
り)



はじめに

公民館の今日的な役割は生涯学習の推進ということにあると思います。その生涯学習を公民館という社会教育施設から、どのように推進していったらよいかということを考えていくことが、私の、公民館職員の方々の皆さんに対する一つの提言ということになるわけであります。

一、生涯学習の発展段階

「生涯学習」とは生涯にわたって学び続けるという意味でありまして、(何時から学習を始めるかということは個人個人によって相違がありますが)その発展

段階の第一段階は、「学習活動に参加する」という段階であります。つまり、スタートの段階です。この段階を公民館で学んでいるうちに、仲間ができるようになり、そこに「相互学習」の段階が生じてきます。

この、「学習活動に参加する」段階と「相互学習」の段階とを通して、公民館界では、「公民館三階建て論」と言っております。それは、一階では、資料を見た

り、そこに居合わせた見知らぬ人とも語り合い、やがて、そうした中に何かを学んでみたいという意欲が湧くと、二階にあが

られており、その学級や講座が開学する。その学習の中から、同じような志をもつ同志がグループを作って三階で自主的な活動をするといいわけです。これが公民館の三階建て論であります。これを、公民館関係者の間では「集い・学び・結ぶ」というように表現していることはよくご承知のことと思います。

こうして、相互学習という形で学習が進んでいくわけでありますが、やがて人々は自らを自ら

が教育する「自己教育」の段階へと進んでいくというふう

に言われております。(これは、学校教育でも同じ)ですから、生涯学習の発展段階というのは、「学習活動に参加」し、同好の士と共に教え教えられる「相互学習」の段階を経て自らが自らを教育するという「自己教育」の段階に発展していくのだというふう

に言われるわけでありま

す。自己教育というのは、まさに、自らが自ら進むべき(学ぶ)方向を見つけたし、自らに適した手段・方法(読書やテレビ視聴などの方法)で、絶えず自己の発展向上に関わっていく、というのが最終的に発展段階と考えられるわけであり

ます。そうしますと、公民館の関係者は、この生涯学習の発展段階に公民館がどう関わるかということ

を、公民館の事業を通じて考えなければならぬわけであり

ます。「学習活動への参加」「相互学習」「自己教育」の段階を縦軸に置き、公民館の事業を横軸に組んでみ

な課題になると考えています。したがって公民館職員にとってはそのところを、頭の中に枠組みを持って、事業を企画していくことが必要であると思

います。「諸集会」があり、講演会であるとか。文化祭・演劇祭・体育レクリエーション関係行事などのいろいろ

な集会というものがあ

ります。そして、もう一つは、小グループやサークルを含めて「団体育成」という事業があるわけ

です。座等々様々な学習が開かれております。そして、もう一つは、小グループやサークルを含めて「団体育成」という事業があるわけ

です。座等々様々な学習が開かれております。そして、もう一つは、小グループやサークルを含めて「団体育成」という事業があるわけ

二、生涯学習の発展段階と公民館の事業

それでは、次に生涯学習の発展段階を追って公民館との関わりについて考えていきます。

1 学習活動への参加の段階

(1) 集合学習の分野では、まず、「学習活動に参加する」という生涯学習のスタートの段階を

考えてみます。「諸集会」では、どのような働きかけをするのか、ということ

を考えてみます。まず、学習意欲を喚起することです。様々な催しにより、そこに集まった人々に対して、生涯にわたって学習していく意欲を喚起する働きかけを

します。「学級・講座」では、初歩的・入門的な内容で、動機づけとしての学習意欲を喚起していくことを

考えていきます。「団体育成」というところは、団体やグループの紹介というような意味での団体育成がなされていきます。

公民館職員に 横浜国立大学教授

この講演は、平成2年3月9日「県公
連絡協議会事務局長会議」において講演
であった吉川先生の最後の講演である。
内容の不備、誤植等の責任は編集部にあ

記念
講演

(2) 個人学習分野では

個人としては公民館を利用する
人に対しては、様々な図書や資
料を展示するという働きかけが
あるでしょうし、学習情報の提
供ということでは、公民館報な
ど広報紙を発行し、その地区の
人々に届けるという「学習活動
への参加」というレベルの公民
館の事業が描かれるように思い
ます。

2 相互学習の段階

(1) 集合学習の分野では

相互学習の段階では、「諸集
会」にあつては、学習者が自ら
企画実施する様々な諸集を公
民館が援助するという働きかけ

(事業)が構想されます。「学
級・講座」においても、自ら企
画実施する学級・講座というも
のがこの段階で考えられなくて
はならないと思います。団体育
成」においては、自主的な団体
やグループ活動を援助すること
が考えられていくだろうと思
います。

(2) 個人学習の分野では

個人学習においての相互学習
というのはどういふことが考
えられるかといふと、通信教
育や放送利用学習など個人で学
習している人たちが、集まって
学習する機会と場を提供するよ
うな方法です。新潟市の公民館
では、放送利用学習を実施しま
した。そこでは、日頃は自宅に
あつて個人的にテレビで学んで
いる人が、週に一度とか、月に
一度といった具合に集まってお
互いに話し合ったり、その道の
専門家を招いているような放
送利用学習のアドバイスを受け
るという事業です。つまり、個人
学習ではあるが、集合学習の機
会と場を提供するのであります。

さて、以上に述べてきた二つ
の発展段階における公民館の事
業は、多くの公民館ではたい
い実施してきたことだと思いま
す。皆さんの地区の公民館の事
業を整理すると、きつとこの枠
組みの中に納まるものと思いま

〈表1〉生涯学習の発展段階と学習分野の相関図

自己教育	自己実現の場			学習情報の提供・ 学習相談の場	
相互学習	学習者自 ら企画実 施	自ら企画 実施する 講座	自主的 活動の 援助	通信教育 の集合学 習	放送利用 学習者の 機会と場 の提供
学習活動 への参加	学習意欲 の喚起	初歩的・ 入門的な 学習	団体・グ ループの 紹介	図書・資 料の展示	広報紙発行
生涯学習 の発展 段階	諸集会	学級講座	同体育 会	個人とし ての施設 利用	学習情報 の提供
生涯学習 の分野	集合学習			個人学習	

(表一)

自分たちのところでは、こ
う

いう諸集を閉いて、学習意欲
を喚起してきたとか、こんな入
門的な学級・講座を開設して、
その道の興味関心を湧き立たせ
てきたとか、あるいは、団体や
グループをいろいろ紹介して、
グループに加入することを勧め
てきたとか、また、事業を展示
して個人学習の援助をしてき
た、というようなことでありま
す。また、もう一歩進んだ段階
では、例えば、新潟市で行なっ
ていますように、成人式の挙行
に当たり青年の中から実行委員
を募集して、自ら企画実施する
ことを援助してきた、学級・講
座なども自ら企画実施するよう
な世話をしてきた、同体育成で

るのであります。

(3) 個人学習と集合学習の結合

ところで、「自己教育」と公民
館事業との関わりについて、論
を進める前に、公民館やそれ以
外の社会教育の事業、その他の
事業を含めまして考えた場合
に、集合学習と個人学習とに類
別しまして、個人学習を強調し
ていきますと、集合学習と個人
学習との結合という問題が生じ
てきます。教育とか学習という
のは、そもそもパーソナルなも
のだと言われております。個人
の生活向上のためのものが学習
だと言います。それが、いつの
間にか学校のように人を集めて
教育するという形になってしま
いました。本来の教育は個人々

も自主的な活動の場とし
て公民館を提供してき
た、というようなこと
であります。
このように、これまで
に述べてきました「学習
活動への参加」の段階と
「相互学習」の段階の上
に「自己教育」という発
展段階が載るわけであり
ます。問題は「自己教育」
と公民館事業とどう関
わっていくかということ
が一番大きなポイントで
はないかと思ひます。本
日の講義のポイントもここにあ
るのであります。

のレベルの問題なのでありま
す。かつては家庭で行われてき
たものであります。それが、文
化遺産が増大して、経済効率
の観点などから集合学習が一般
的なことになってしまいました
た。学校教育がその典型であり
ます。公民館の事業もまた同様
です。いつのまにか人を集めて
教育するという形になってしま
いました。しかし、最近ではマ
スメディアの普及によって個人
学習が見なおされるような時代
になってきたわけでありま
す。すると、個人々の学習をそのま
まにしておいていいのかという
問題が出てくるわけです。

そこで、公民館では常に個と
集団の結合というものを、どう
いうポイントから取り上げてき
たかと言いますと、「地域性」で
あります。公民館は、地域の発
展向上ということを常に念頭に
置いて、その地域を住みよい地
域社会にするために、公民館に
期待されることが大きかった。
ですから、本来は個人の学習で
あるものを集合学習として結合
していく。先ほど申しました「集
い・学び・結ぶ」という段階は、
「まちづくり」とか「コミュニ
ティづくり」とかいうことと結
びつけて個と集団の結合を図っ
てきたわけでありま
(以下次号)

百館百様

待ちの学習から 攻めの学習へ

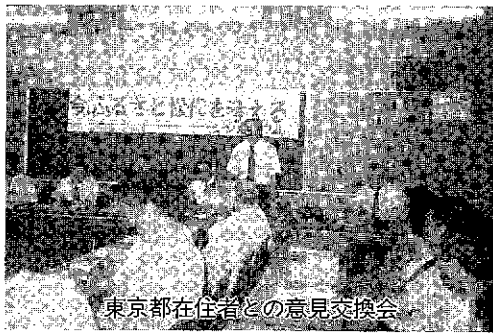
地域おこし町民講座の手応え

松代町公民館

松代町の人口は五・二五五人(十一月末現在)。多かった時は一万余人余を数えたのだが年々減少してきている。町の行政当局でも、

いろいろな面からの活性化を図っているが、人口減少はなかなか止まってくれない。

公民館サイドでもこれに呼応して、今までの教養中心の「町民講座」から、町民の関心の高い「地域おこし」を中心とした



東京都在住者との意見交換会

学習活動に取り組み、公民館事業のイメージチェンジを図っている。「地域おこし町民講座」はその一つである。

一、先進地の取り組みの紹介

「地域おこし町民講座」は、昭和六十二年に開設したもので、当初は年間テーマを「町おこし域活・ルネッサンス」とし、サブテーマを「みんなで聞く・話し合う・考えよう」とした。

最初の事業は「先進地の取り組みの紹介」から始めた。これまでの教養中心の文化講座が、ややもする受身の姿勢だったことから、町民が自分たちの生活や地域の問題を自らの問題として捉え、課題意識を持って積極的に参加できるように学習へと工夫した。

まず、町民に先進地の取り組みを知ってもらうため、1回目は県内外に著名な安塚町の矢野学町長を迎え、「地域の元気で町づくり」と題する講演を聞いた。この時の参加者百七十八人。住民の地域おこしに対する熱意が伝わってきた。

これに意を強くして「田野畑村の実験」で有名な岩手県の北部陸中海岸観光開発の伊達勝身氏を招へいして講演会を開くなど、意欲的に地域おこしに取り組んでいる方々によって毎年学習活動を展開している。

二、特産品の開発を探る

地域おこしの大事な要素を占める特産品についても話題を提供してきた。

自然を生かした山菜、山野草の利用に始まり、ビールのつまみに最高の川えび(スズエビ)の養殖は可能かどうかなどに取り組みんできた。

今年、県醸造試験場長の広井忠夫氏の「地酒を考える」の講義から、当町で手に入る材料を使っ、町独自の地酒ができないものかと広井講師を囲んで検討を重ねた。その結果「日本酒を使ったものなら、まだどこでも取り組んでいない地酒ができる」との言葉に意を強くし、試作した結果香り豊かな地酒が出来あがった。



貴重な意見が続出

現在、特許申請中である。町民講座から産まれた地酒が、町の特産品として町内外の人々の口に入る日も近い。

三、移動町民講座

先進地の地域おこしの取り組みを町民が目で見たい経験する企画が移動町民講座である。

県内の先進地として知られている、黒川村・入広瀬村・小国町の三町村の視察を行った。「百聞は一見にしかず」のたとえのとおり町外に出て、町民が目で祝、肌で感じた事は強いインパクトを与えるものとなった。

本年は今一歩踏み込んで、東京都在住の郷土出身者で、ふるさと松代町を外側から考えている方々との意見交換会を実施し

た。会場は代々木にあるオリンピック青少年総合センターにおいてである。

「今、松代町を考えるシンポジウム」と題して、これからの松代町の進むべき方向を思いつくま意見述べていただいた。町内には気が付かない貴重な意見が続出し、予定していた時間が足りなくなるほどの熱気に包まれたものとなった。

特に東京在住の方々の、ふるさとを思う気持には、頭が下がる思いであった。

おわりに

地域おこしをテーマとした講座となつてから「おらの町は、おらの手で」という町民自身の地域おこしの意識の高揚につながったものになっている。

町民が何を求め、何を期待しているのかをつかみ、公民館は地域に根ざした話題を提供し、仕掛人となるのが大事ではないだろうか。従来の待ちの講座から積極的に町外に向けた攻めの講座を実施したことが、より高い成果を上げることができたものと確信する。

町民講座の中から生まれた特産品が地域おこしの一役を担い町の活性化につながることを願いつつ……

(松代町公民館主任 石口丈夫記)

百館百様

サークル交流

生活の中のマジック

村上マジッククラブ

私たちのクラブを、ムラカミマジッククラブを使って紹介したいと思います。

ム●難しいマジックはしない。

ラ●来年こそは、ガンバルと、毎年言っている。

カ●会費が安い。(月五百円)

ミ●皆大酒飲みである。

マ●まったくうまくならない。

ジ●自己満足で終わっている。

ツ●一回の定例会の出席率は低い、宴会は大勢集まる。

ク●苦勞の甲斐あって、大所帯

になった。(会員十六名)

ク●クラブの雰囲気は、なごやかである。

ラ●楽しんで上手になろうとしている。

ブ●不器用な人が多い。

以上でクラブの雰囲気がかかってもらえると思いますが？

私たちのクラブは、マジックを覚え、それを毎日の生活の中での、人間関係を良くする道具又は潤滑油として、うまく活用できればと考えています。

(山田基明記)

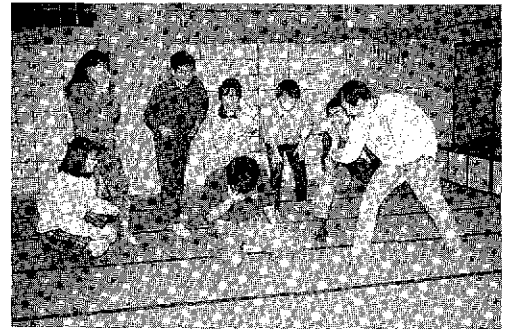
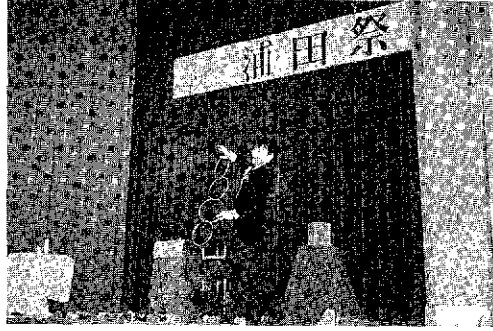
人の和を磨く

公民館演劇教室 劇団「猫」

自分の日常生活とは違った世界に浸ったみたい、華やかな銀幕の世界で人の注目を浴びてみたい、そんな願いが通じて、公民館の演劇教室がスタートして今年で四年目になります。

毎週月曜日の夜、年令、職業の違う個性豊かな十三人の団員が、講師の牧岡 孝先生を囲んでにぎやかに練習に励んでいます。

劇団といっても、所詮素人の



集まり、学芸会に毛のはえたようなものですが、自主公演や市民芸能祭などで、市民会館大ホールの舞台でスポットライトを浴び、観客の拍手を聞く時、本当にこれでよかったのかなという不安もある反面、みんなで作らあげたのだという喜びと満足感是他にたとえようがありません。

この劇団のモットーは「人の和」練習はもとより、飲み好きの仲間が、なにかといつては飲んで「人の和」を磨いています。

(板尾市公民館演劇教室 劇団「猫」 葛綿 慎記)

亀田町公民館係長

渡辺誠一氏 (五十三歳)

人口三万人余、県下市町村で人口増加の著しい町の一つ、それが亀田町である。地区館も分館もない唯一一つの公民館である。純農村的な地域と新潟市のベットタウンとして発展する地域とがあり、まさに、住民の要望は全く多種多様である。そんな住民の方々のニーズに答えて活躍をしておられるの



な住民の方々のニーズに答えて活躍をしておられるの

素顔拝見

大和町公民館主事補

石田 仁氏 (27歳)

「青山学院大卒の新採用」として迎えたのが昭和六十三年の四月であったから、彼がわが公民館に配属されてもう二年半が過ぎた。が紅顔の美少年とも云うべき初々しさはいまも変わらない。

初年度はまず、行政及び公民館事業の概要をつかんでもらい、かつ町民に接する機会をより多くもってもらうために広報(含む館報的な面)を担当してもらった。その仕事ぶりは不言実行型で黙々と事業事務を処理



している。二年目からは「英語に堪能な職員」の本領を十分発揮してもらい、国際大学の多国人留学生を講師とした英会話教室、中国語教室、ジュニア国際交歓会等の業務もこなしてもらっている。

この春、父君を病気で亡くし、現在は母上との二人暮らし。早くすてきな嫁さんを見つけてほしいものである。

(大和町公民館係長 井口光雄記)





半年目の結論

加藤 幹 雄

今年の四月一日に教育委員会の組織改変で生涯学習課が新設されて、十三年振りに舞いもどってきました。十三年前に二十年間社会教育の現場に居ましたから、当時お世話

になった方々にお逢いしたり、いろいろなどころで懐しいお名前を拜見して、またつながる事が多いんだらう位に高を括っていたのですが、十三年間は一番ではなくて、二昔か三昔か遠い遠い過去の事であったのです。生涯学習というどのように理解して良いのかわからないような考え方が世の中を席巻して、社会教育という言葉さえ何か古めかしい時代遅れのもののように錯覚してしまいうような空気にまず驚いてしまいました。しかも、生涯学習課の新設という正に時流に沿った改変でありましたから、それなりの期待も寄せられていきますので、ただ驚いてばかりも居られなかったのです。

今年四月一日に教育委員会の組織改変で生涯学習課が新設されて、十三年振りに舞いもどってきました。十三年前に二十年間社会教育の現場に居ましたから、当時お世話

になった方々にお逢いしたり、いろいろなどころで懐しいお名前を拜見して、またつながる事が多いんだらう位に高を括っていたのですが、十三年間は一番ではなくて、二昔か三昔か遠い遠い過去の事であったのです。生涯学習というどのように理解して良いのかわからないような考え方が世の中を席巻して、社会教育という言葉さえ何か古めかしい時代遅れのもののように錯覚してしまいうような空気にまず驚いてしまいました。しかも、生涯学習課の新設という正に時流に沿った改変でありましたから、それなりの期待も寄せられていきますので、ただ驚いてばかりも居られなかったのです。

今年四月一日に教育委員会の組織改変で生涯学習課が新設されて、十三年振りに舞いもどってきました。十三年前に二十年間社会教育の現場に居ましたから、当時お世話

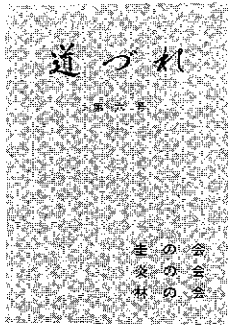
今年四月一日に教育委員会の組織改変で生涯学習課が新設されて、十三年振りに舞いもどってきました。十三年前に二十年間社会教育の現場に居ましたから、当時お世話

今年四月一日に教育委員会の組織改変で生涯学習課が新設されて、十三年振りに舞いもどってきました。十三年前に二十年間社会教育の現場に居ましたから、当時お世話

資料紹介

道づれ 第六号

見附市の作文サークル主の会(会員20人)炎の会(会員11人)林の会(会員9人)の三つの会が、結ばれた絆のもとに、この



発行代表者

山谷一巴(圭の会)

ほど作品集「道づれ」第六号を発行した。作文を通じて人生について語りあう友の輪を広げたいと、気楽な参加を待っている。

関心のあるむきは、見附市図書館、中央公民館、今町公民館に遠慮なくお尋ねください。(A5判 130ページ 平成2年11月25日発行)

今年四月一日に教育委員会の組織改変で生涯学習課が新設されて、十三年振りに舞いもどってきました。十三年前に二十年間社会教育の現場に居ましたから、当時お世話

今年四月一日に教育委員会の組織改変で生涯学習課が新設されて、十三年振りに舞いもどってきました。十三年前に二十年間社会教育の現場に居ましたから、当時お世話

今年四月一日に教育委員会の組織改変で生涯学習課が新設されて、十三年振りに舞いもどってきました。十三年前に二十年間社会教育の現場に居ましたから、当時お世話

今年四月一日に教育委員会の組織改変で生涯学習課が新設されて、十三年振りに舞いもどってきました。十三年前に二十年間社会教育の現場に居ましたから、当時お世話

今年四月一日に教育委員会の組織改変で生涯学習課が新設されて、十三年振りに舞いもどってきました。十三年前に二十年間社会教育の現場に居ましたから、当時お世話

発行所 新潟県公民館連合会
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟(025)224-6073】
発行人 会長 木下清一
編集人 事務局長 上村捨二郎
【定価1部120円 年共1,440円】